

令和8年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ
『京都・梅小路公園をコアとした
クリエイティブコミュニティの醸成』

活動地域：京都市「京都駅西部梅小路・丹波口地域」

活動団体名：(一社) DESIGN KYOTO (DK)

中間支援主体名：梅小路クリエイティブプラットフォーム(U-PLAT)

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	一般社団法人DESIGN KYOTO (DK)
活動地域	京都府
専門性・強み	
#地場産業 #文化ビジネス #国際的ネットワーク #自然・風土・歴史・文化 #都市における土中環境改善 #EDONOMY エドノミー #高価値型循環経済	

団体概要
<ul style="list-style-type: none">・2016年より「地域のモノづくり現場」での交流事業や研修、コミュニティ醸成を推進してきた団体・2025年度より「地域ならではの風土・文化をベースに国際的に独自価値がある存在」を目指す地場産業のコミュニティへ転換。・梅小路公園を拠点に、各地の現場と国内外からの訪問者の交流を促進し、創造的な地域の未来につながるイベントや場作りの機会を企画・実施している。・アート・クラフト・デザインをテーマとした国際カンファレンス「Kyōto YouMe Triennale」を開催。

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	梅小路クリエイティブプラットフォーム (UPLAT)
活動地域	梅小路
専門性・強み	
#多様な地元主要プレイヤーとのネットワーク #中立的立場 #産官学連携 #梅小路エリア特化	

団体概要
<ul style="list-style-type: none">・JR京都駅～梅小路京都西駅のJR西日本山陰線沿い「京都駅西部エリア」の地域資源を活かした「クリエイティブタウン化」を目指すエリアマネジメント団体・構成メンバーは、設立経緯の異なる複数のまちづくり協議会(※1)、まちづくり会社(※2)、地域事業者(※3)、公園管理者(※4)が参画しておりオブザーバーとして京都市も議論参加
※1 京都・梅小路みんながつながるプロジェクト(事務局：JR西日本) 梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会(事務局：スターツ)
※2 (株)梅小路まちづくりラボ
※3 COS KYOTO(株) ※4(公財)京都市都市緑化協会

活動団体と地域の紹介

梅小路クリエイティブタウン化構想



KYOTO RESEARCH PARK



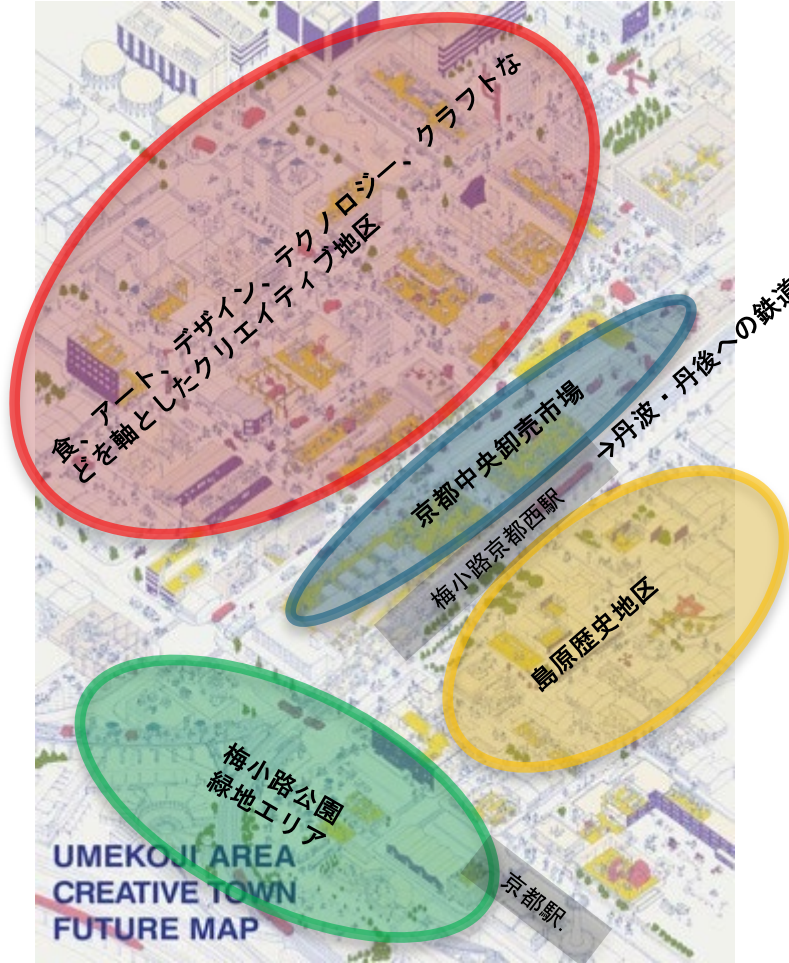
KYOTO MAKERS GARAGE



KAGAN HOTEL(Art hotel)



KYOTO BEER LAB(Craft Beer)



京都中央卸売市場



島原歴史地区



梅小路公園

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域の住民・クリエイター・企業等、日常では出会わない多様なプレイヤーが梅小路公園での活動をきっかけとして出会い、交流し、新たな活動や事業を生み出していく寛容かつ信頼度の高いコミュニティ＝土壌を形成している。都市における自然＝公園を入口として自然に関わることで、周辺部に位置する農村等も含めた地域を一体的に愛し、自分ごととして捉えて主体的に関わり合う中で、経済・社会を考えていく上での前提のこととして循環型の仕組みを捉えている。

■地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

○梅小路エリア内の地域住民、団体、プレイヤーなど多くのステークホルダーがお互いに組織を超えて、一人ひとりの顔が見える関係性の構築

○梅小路公園での活動をきっかけに、各ステークホルダーのプレイヤーが組織を超えて連携し、役割連携し、様々なプロジェクトが生まれ続け、自律的に継続していけるコミュニティの醸成を図る

■ローカルSDGs事業として取り組む内容

○梅小路公園での資源循環に関する活動「資源がくるりプロジェクト」や「土中環境改善ワークショップ」、トークセッション、数値的な分析による効果測定などを通じた、地域の関係者の環境意識醸成と交流の場の創出
○廃棄物を活用したグッズやイベント備品等の制作、ワークショップ、レンタルによる環境意識醸成と収益化
○ツアープログラムの企画・実施と収益化
・梅小路公園を発着地として、都市部での資源循環の理解と周辺地域など農村地帯での資源循環・共生のあり方を体験できる研修プログラムの実施

■地域の現状と課題

○現状

・歴史的にも、そして現在も丹波・丹後への出発地点であり、都市⇔農村のゲートウェイエリア
・京都市中央卸売市場のある街として京の食文化という土壌のうえに、オーバーツーリズムの影響を受ける京都市の中では、遊休不動産等の適度な余白があり、島原地域の歴史的街並み、梅小路公園の自然アメニティ、芸大生を始めとしたクリエイティブプレイヤーの流入等、多様な街並み・人材が近接しながら共存している多様性にあふれているエリアであり、多様なプレイヤーが地域活性化に向けた活動を展開中

○課題

・多種多様なプレイヤー（企業・団体、個人、住民）が存在しているが、相互の認知・交流やクリエイティブエリアへの移行を目指していくという共通理解が不足
・京都駅近くで梅小路京都西駅もでき、公園もあり、小学校等も整っており、建物の高度化が認められたため、建物のリノベーション等による利活用よりマンション開発とホテル開発の需要が旺盛で経済合理性が高いため、文化・自然環境の合理性の方が弱い。

(参考) ローカルSDGs 事業の紹介

『まちなか自然ラボ事業』

【概要】

- ・梅小路公園を拠点に、都市における自然資本の再生を実践し、コミュニティも活性化する目的で実施。
- ・劣化が見られる土壌環境の改善活動（落ち葉・剪定枝等を活用した土中環境改善）を地元住民とともに継続的に実施。
- ・都市公園をフィールドに、自然資本の循環を実践的に学ぶ場を形成している。

【段階】 実践

【活用している自然資本・地域資源】

- ・操車場跡地に造成された都市公園という再生フィールド
- ・公園内の土壌・樹木・落ち葉・剪定枝
- ・京都市都市緑化協会との連携体制

【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・土壌の通気性、保水性改善、樹木環境の回復や生物多様性回復の基盤形成
- ・地域住民の継続参加体制の確立と公園管理への主体的関与の醸成
- ・里山地域との接続による広域循環モデル化

今後の展望

- ・梅小路エリアの住民・事業者への周知強化とコアメンバーの増加を図る。
- ・土中環境改善効果の定量的な評価と発信に向けて、研究機関等との連携を図る。

『Local Wisdom Journey』

【概要】

- ・企業や団体向けに梅小路公園～丹波などの地域をつないだ研修・体験プログラムを企画・運営。
- ・移動手段等の経費によって参加費が高額になってしまうため、個人向けよりは企業・団体向け研修プログラムとしての実施が中心。

【段階】 実践

【活用している自然資本・地域資源】

- ・梅小路公園の自然共生サイトや土中環境改善の現場
- ・梅小路・丹波口のクリエイティブエリア化の取り組み
- ・京都市中央卸売市場と周辺の食関連現場
- ・大原野や丹波などの自然サイトや工房等

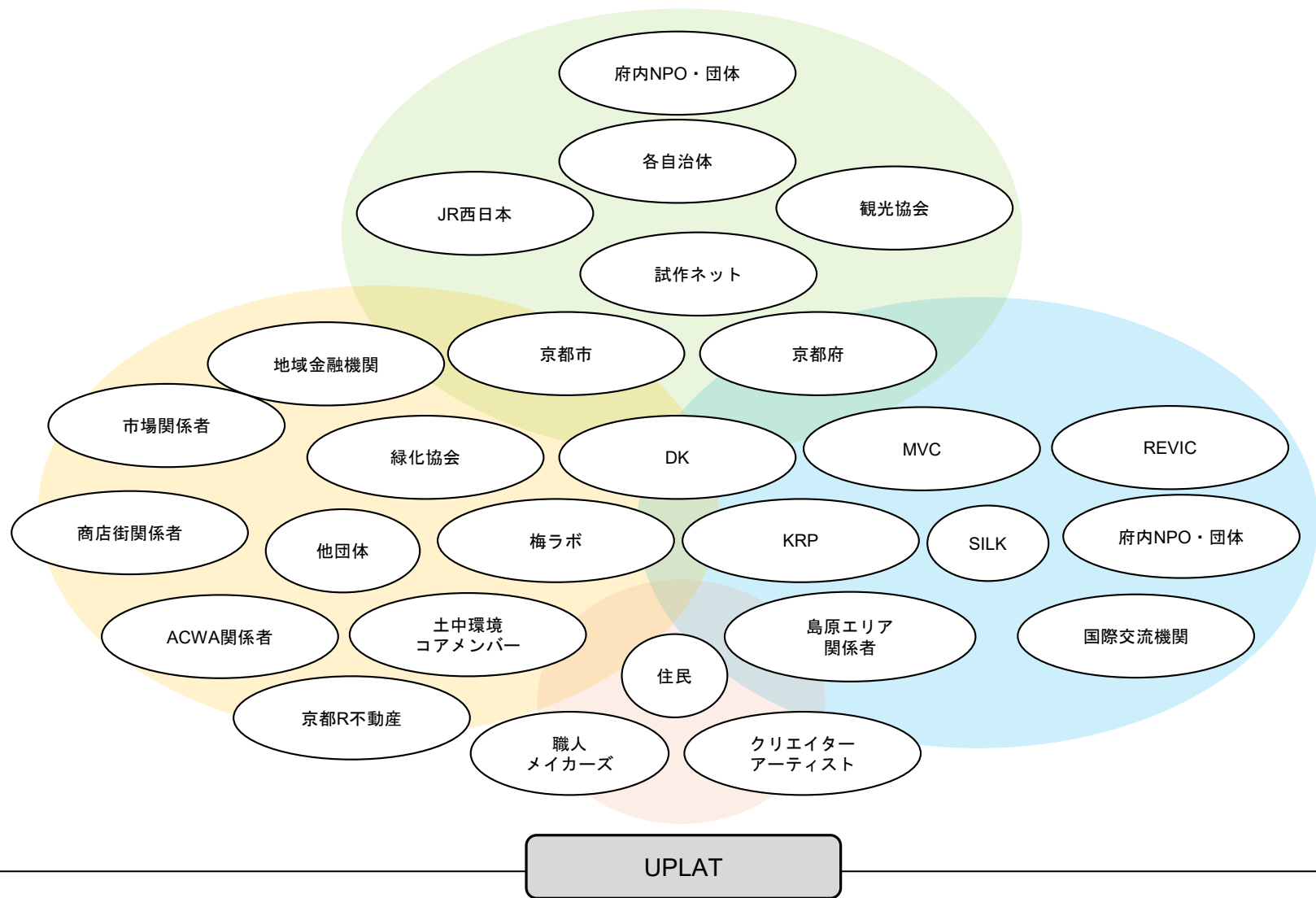
【事業により生じたor 生じそうな成果】

- ・地元企業・個人の新たな収益源の創出
- ・京都市のサーキュラービジネスデザインスクールや海外自治体、企業等からの研修プログラムの受託
- ・海外企業等からのリサーチの受託
- ・京都市のレジデンス事業への参画
- ・MICE関係からの引き合い

今後の展望

- ・東南アジア、オーストラリアなどの国を中心に、MICEに関連したプログラムを企画し、関連事業者（国内MICE事業者、近隣のホテル、自治体、海外ビジネススクールや団体等）に訴求する

(参考) 現状の地域プラットフォーム



3 力年状態目標

■2027年度末の状態目標

2026年度に構築した事業基盤をもとに、ツアー・研修プログラムおよび関連事業が自走的に運営され、持続的に収益と価値を生み出しながら発展している。

- ①ツアー・研修プログラムがMICEエクスカージョンとして国内外から継続的に選ばれるコンテンツとして定着し、安定した収益事業として確立している。
- ②梅小路公園での活動に関して、企業連携・協賛の枠組みが発展し、単発的な支援にとどまらず、共同企画や継続的な関与を伴うパートナーシップへと深化。多様な主体が関わる事業推進体制が自立的に機能している。
- ③土中環境改善・コンポスト活動を起点としたコミュニティが、組織の枠を超えて多様なプロジェクトを創出し続けるプラットフォームとして定着している。④育成した子ども向けインタープリターが主体的に活動を担い、ネイチャーガイドや体験プログラムが継続的に実施されるとともに、次世代育成と地域雇用につながる人材循環が生まれている。

■2026年度末の状態目標

これまでの取り組みを事業化し、持続的に収益を生み出す基盤を構築することで、地域循環共生圏事業終了後も活動を継続・発展できる。

- ①緑化フェアを契機に、梅小路公園発のツアーや研修プログラムをブラッシュアップし、MICE向けに販売可能な商品として展開する。そのための営業体制を整備し、安定的な収益化の基盤を構築している。
- ②収益の多角化・運営体制の安定化を図るため、梅小路公園での活動において企業との連携・参画・協賛企業集めを推進、持続的な事業運営を支える関係性を構築している。
- ③梅小路公園でのインタープリター育成プログラムを立ち上げ、自然との関わりを来訪者や親子に伝える機会を広げるとともに、将来的なプログラム運営や地域雇用につながる人材基盤の形成を進めている。

■2025年度末の成果と振り返り

- ①万博をきっかけとして、当方が実施するツアープログラムや可能性について、関わってくださったプロフェッショナルの方々や旅行会社・MICE関係者に認知が高まり、ツアーや研修の引き合いが増加した。
- ②梅小路公園での土中環境改善ワークショップをきっかけとして交流が深まり、公園での各種イベント等に連携して出展するといった事例は増加した。
- ③公園での活動を通じた交流、クリエイティブエリアにつながる多様なコミュニティの醸成といった効果を経済合理性のみで測る主体が多く、なかなか理解を得られなかった。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと（ヒト/ モノ/カネ/仕組み/機能 等々）
①	事業主体を探す・生み出す MICE向け、ツアー・研修プログラムの商品化・販路開拓	8月末：プログラム完成／10～11月：FAM実施／12月：販売開始	プログラム設計・商品化 → FAMトリップによる検証 → 商品改善 → 販路開拓・営業 → 実施・改善の循環	販売ツールの整備、販路・導線の整備、連携企業・団体の開拓
②	事業主体を探す・生み出す 梅小路公園での活動における企業連携・協賛企業開拓	8月末：連携方針・協賛メニュー設計／9～12月：企業アプローチ・関係構築／2月：協賛獲得・連携開始	協賛メニュー設計、企業リストアップと営業、連携内容の具体化と関係構築	提案資料整備（価値・メリットの明確化）、ネットワーク活用、関係継続の仕組みづくり
③	事業主体を探す・生み出す 子供向けインタープリター育成プログラム基盤づくり	9月末：プログラム設計／10～11月：試行実施・改善／12月：実際の運用に向けての整備	プログラム設計、モニター募集、試行・改善	カリキュラム・教材整備、実践機会の創出続
④	全アクションサイクル共通 活動レポート制作	11月：構成設計・素材整理／12月-2：制作・編集／3月：公開・発信	構成設計、素材収集、原稿作成・編集、デザイン制作、公開・発信	ライター・カメラマン・デザイナーの確保、発信・活用の運用設計

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■中間支援主体の1年間の支援目標

DESIGN KYOTOが、①MICEを軸とした収益事業の自走 ②企業との継続的な協働体制の確立 ③梅小路公園でのインタープリター育成という3点を実現できるよう伴走し、梅小路公園を核とした地域プラットフォームの形成とローカルSDGs事業の創出に貢献する。

■支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	商品化・営業不足 活動のコンテンツ力はあるが、MICEや旅行業界向けに「売れる商品」として仕立て、営業する経験・チャンネルが乏しく、収益化に至るまでのハードルが高い。	梅小路クリエイティブプラットフォーム等のネットワークを駆使して、旅行会社・MICEなどの関係者等を紹介する。
②	企業連携の糸口が掴みにくい 協賛・連携先の開拓において、企業側の参画メリットにつながる点を提示しながら関係を構築する部分が梅小路公園の活動では直接的には示しにくい。	梅小路クリエイティブプラットフォーム等のネットワークを駆使して、梅小路公園に親和性の高いJR西日本等への紹介と彼らのメリットのイメージをアドバイスする
③	論理的根拠のリサーチ不足 梅小路公園での活動を下支えする科学的な分析や根拠、経済的な効果につながる理論などの分析が不足しているため、多くのプレイヤーに理解しがたい。	土壌解析等の分析・リサーチ方法についてのアドバイスを行う

中間支援主体のありたい姿

■中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

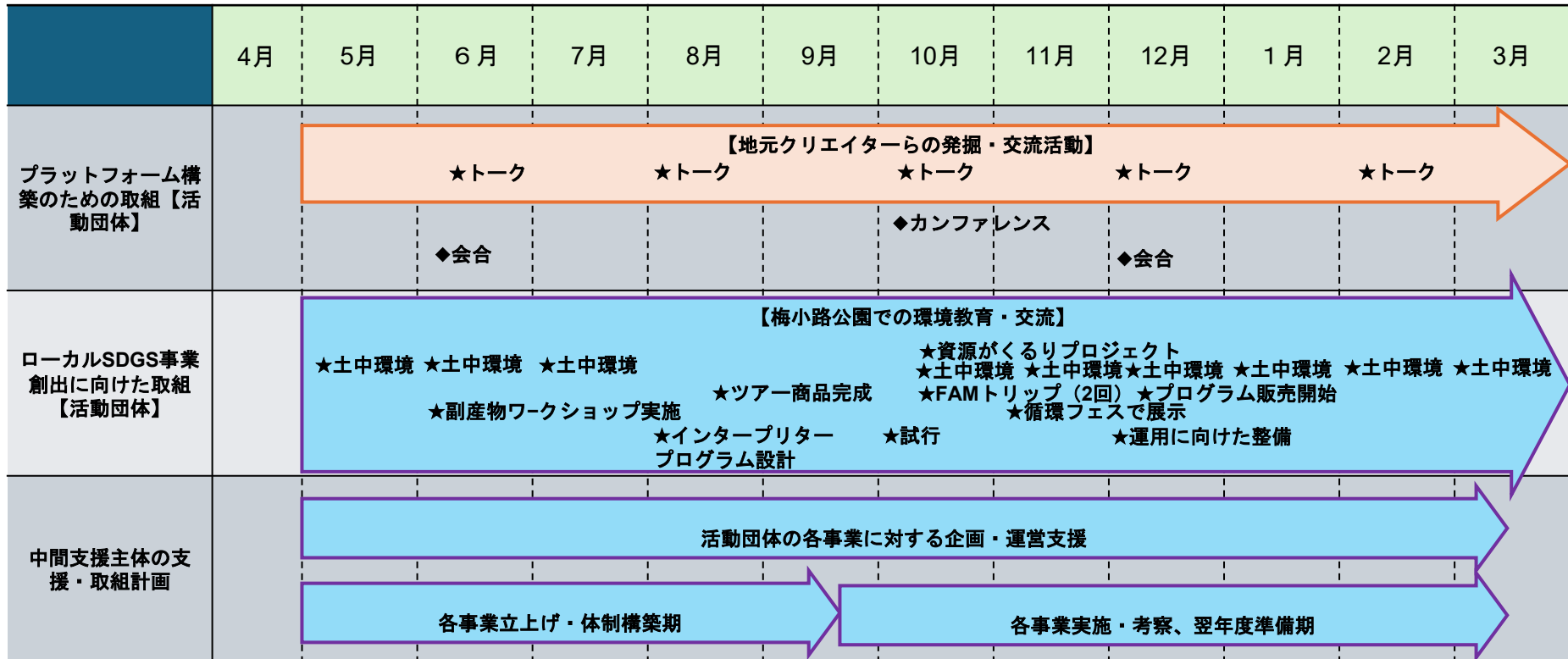
- ・ 地域事業者や自治体含む諸団体と、活動団体とのマッチング機能の充実。
- ・ 活動団体に不足するノウハウの指導（ファイナンス、地域マネジメント、情報発信など）
- ・ 諸活動団体の持つノウハウの吸収・文書化・横展開など（ノウハウの地域循環）

■中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

- ・ あらたに活動団体が増えた時に、必要な各地域事業者や自治体を含む諸団体とのマッチング機能を発揮し、地域活性化に寄与し活動団体の成長にも貢献するWIN-WINなアレンジができるプラットフォーム機能を発揮したい
- ・ 地域のアレンジャーとして、国・京都府・京都市とまちづくり政策、環境政策等に関する政策議論ができるパイプラインを有し、地域の社会課題解決に向けた活動をリードできる民間プラットフォームとして貢献したい

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール



備考（補足説明など必要な場合は記載）